

世界のオレンジ市場(抜粋)

FreshPlaza 2025年1月10日

寒くなるにつれて、特にヨーロッパで需要の増加が見られる。フランスでは需要が良好で、市場は活発である。ドイツでも、需要が増加しており、多くの供給国からオレンジが入荷している。イタリアの2024/25年度のオレンジ出荷シーズンは、多くの生産上の課題に直面している。スペイン産オレンジは生鮮市場も加工用も良い値が付いている。

今シーズン、エジプトの生産者は過剰生産の罨を回避した。南アフリカは、現在のオフシーズンにかなりの雨が降ったことを歓迎している。北米ではオレンジの入手のしやすさは地域により異なっている。

スペイン：スペイン産オレンジの価格は生鮮市場、加工用ともに良い

スペインのオレンジの出荷シーズンは、ちょうど中間点を過ぎたところである。総出荷量の53%以上を占めるアンダルシア州で前年比22%以上の生産量の増加が見込まれるなど、主要産地で降雨量が大幅に増加したことで満足のいく結果が得られている。

最適とは言えないまでも灌漑用水の割り当て量が増加し、果樹園の植生の状況が大幅に改善したことも注目される。

12月の末は祝祭日の期間に当たり、ネーブルオレンジは例年どおり価格が下った。しかし、1月中旬には、生産者価格と出荷業者の出庫価格の両方で、過去5回の出荷シーズンの平均を上回り、この時期としては直近10年間で、昨年を除いて最高価格となった。

出荷シーズンの前半では、業界関係者によれば、ネーブルオレンジの小玉が多いにもかかわらず、生鮮市場と加工用の両方で前向きな結果となった。

「ナベリーナ品種に関しては、加工業者はかなり良い価格を支払っている。価格は約23ユーロセント/kgで、果実のサイズが小さい(サイズ5、6、7が多い)ことを踏まえると、今年はオレンジを海外に持っていきよりも加工業界に高い関心を寄せる生産者がいると言われている。実際、従来からの生食用果実市場では、大きなサイズが不足し、通常よりも出荷量が少ないことが注目されている。」

シーズン後半のオレンジは、雨がサイズに与えた恩恵が注目されており、状況ははるかに良くなると見られる。「弊社の場合、非常に良い品質とサイズが期待される葉付きのネーブレート品種の輸出が開始できるのを待っている。」

エジプト：生産者は過剰生産の罨を回避

エジプトのネーブルオレンジの出荷シーズンは12月初旬に始まった。生産者は、前シーズンに大量の出荷量にまったく適さない状況、すなわち紅海の危機の中で見られた過剰生産の罨を今年は回避した。振り返って見ると、エジプトは昨シーズン、オレンジ193万トンを含む230万トンの記録的な柑橘類輸出量を達成することができたが、価格は低かった。ある生産者は、「今シーズンは全国レベルで過剰な供給を避けることができたので、大変安心している。出荷量は、世界の市場ニーズをカバーするのにちょうど良い。樹上の着果密度が低いと、果実のサイズ分布が改善され、選別と品質管理の条件が改善した」と話す。

出荷シーズンの序盤は、この段階ではいつもそうであるように低迷しているが、トルコとモロッコのライバル業者は、有利な物流条件を利用して販売量をこなしている。ある輸出業者は、「エジプトのオレンジ市場はこれまでのところ、良好ではあるが荷足が遅い。これは珍しいことではない。例年のように、1月末までに出荷量が増加し、通常のペースに達すると予想している」と述べた。

この出荷シーズンの開始に先立ち、エジプト政府が輸出補助金の削減を決定した。農業部門では、販売額の8~10%であった補助金が2.4~3%に削減された。この措置の受け止め方は、オレンジ輸出業者によって異なる。輸出量の減少、価格の上昇、輸出業者間の価格差の縮小に直ちにつながる可能性はある。しかし、ある輸出業者は、「農産物輸出業界への好ましくない参入者達は、今シーズンに撤退するか、良い慣行

を採用するだろう。彼らは業界にとって有害なので、それは良いニュースだ」と要約しており、その影響は最終的にはプラスになると見られる。(中略)

エジプトの輸出業者は、紅海危機の影響としてアジア市場への供給の難しさに引き続き苦しんでいる。ある輸出業者は、「極東市場には慎重にアプローチしている」と述べている。別の輸出業者は、「紅海の危機はまだ続いており、エジプトの輸出業者がどれだけうまくそれに適応するかで違いが生じる。例えば、保険会社の選択に関連することや、出荷ルートの変更について対処することができる」と言う。

最後に、現在の出荷シーズンに変化を与える別のパラメーターは、グローバルGAP認証の改訂である。これにより、ヨーロッパで競争できる輸出業者の数が減少する。

上記のすべてのことが価格を押し上げている。ネーブルオレンジの農場出荷価格は、前シーズンの初めの8~9エジプトポンド(EGP)/kgから、今シーズンの初めには16EGP/kgに上昇した。(1EGP=約3円)

南アフリカ：オフシーズンにかなりの降水量

南アフリカの柑橘類農場では、今は一年のうちで静かな時期である。12月初旬にはまだ非常に乾燥していた北部のリンポポ州とムプマランガ州では、その後かなりの雨が降った。オレンジの収穫は5月頃に始まる。

2024年も引き続き、オランダが南アフリカ産ネーブルとバレンシアの最大の輸出先であった。南アフリカ柑橘類生産者協会は、「輸出用に梱包されたネーブルオレンジは、2023年と比較して40万箱多いものの、予想より2%少ない2,510万箱であった。バレンシアオレンジは合計4,870万箱を梱包した。これは2023年シーズンよりも470万箱も少なく、当初の予想に比べて16%の大幅な減少である」としている。

2024年に見られたオレンジ果汁価格の高騰は、今後2~3年続く可能性が高く、6年続くとも言われている。いくつかの要因は、搾汁用オレンジの生産量が30年間で最低になった結果として、高値が続いていることを示している。しかし、オレンジ果汁価格の高騰は、消費者の抵抗を招き、他の飲料へのシフトにつながる恐れがあり、一方、果汁メーカーはオレンジ果汁の代替品を探している。

南アフリカ柑橘類生産者協会は、「今、100万ドルの価値のある質問は、短期、中期、さらに長期的に何が起こるかということだ。これを確実に知っている人は、オレンジ果汁の先物取引で大金を稼ぐことができる」としている。

北米：オレンジの入手しやすさは地域によって異なっている

フロリダ州のオレンジは、シーズン後半のバレンシア種に移行している。供給量はやや少ないが、今後数週間のうちに増加すると見られる。

同州には果汁産業と生鮮果実産業の両方があり、果実の一部が生鮮市場の側に振り向けられることが見込まれる。生鮮果実業界は5月末まで安定した供給を維持し、一部の出荷業者はそれ以降も冷蔵倉庫から出したものを梱包・出荷する可能性がある。一方、オレンジの需要が旺盛なため、市場は落ち着いており、価格も安定している。晩生品種は価値が高いため、価格はある程度堅調に推移する可能性がある。

テキサス州にも一定程度の量のオレンジがあり、カリフォルニア州からの供給も安定している。カリフォルニア州中部からの供給については、生産者が糖度の上昇を待っていたため、出荷シーズンは約1週間遅れて始まった。ただし、中級品の果実や小玉の果実は供給量が不足している。価格は昨年と同程度である。